

新刊  紹介

**遺伝子医学 MOOK 16**  
**メタボロミクス：**  
**その解析技術と臨床・**  
**創薬応用研究の最前線**

田口 良 編

メディカルドゥ/B5・252頁・5,500円

本書は、メタボローム研究の最前線で活躍されている研究者によって執筆され、その基礎と応用についてバランスよく著されている。これから研究を始めようとする人はもとより、経験者であっても、現状の技術や測定の基礎とその応用研究について、図や写真を使用し平易に記載されているため、非常に理

解しやすい内容となっている。

メタボロミクスに関する論文は2000年頃から見られ始め、質量分析計の精度や感度の向上とともに、得られるデータの質も格段に向上してきている。メタボロミクス研究において、対象となる代謝物の性質は多様なため、最適な分析手法を用いることが重要である。

本書の基盤技術の項では、NMR, GC/MS, CE/MSを用いた測定ストラテジーに加え、LC/MSを用いたリピドミクスにおける具体的な作業例と結果が記載されている。これから研究を始めようとする人にとって、大いに参考となるであろう。

一方で、分析手法をマスターしデータを蓄

積したものの、得られた膨大なデータをどのように扱うべきか悩んだ分子生物学者も多かったのではないだろうか。本書ではメタボローム研究の結果から、分子メカニズムの解明を効率的に解析する上で欠かせないインフォマティクスに関する基盤技術について、約40頁にわたって具体例を示している。さらに、後半では医療・創薬への応用事例が掲載され、投薬後刻々と変化する代謝の様子を種々のアプローチで解析した結果は、大変興味深い。是非、一読をお薦めする。

池田幸弘 Yukihiro IKEDA

※本書は、日本薬学会「薬学情報コーナー」で閲覧できます。